

阿久比町都市計画マスタープラン 概要版

～暮らし、産業、自然を育み 未来につながるまち～



令和3年3月(令和8年6月部分改訂)
阿久比町



1. 計画策定の背景・目的

■計画の目的

都市計画マスタープラン（以下「本計画」という。）は、都市計画法第 18 条の 2 に規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として、まちの将来像や整備方針を定めるものです。

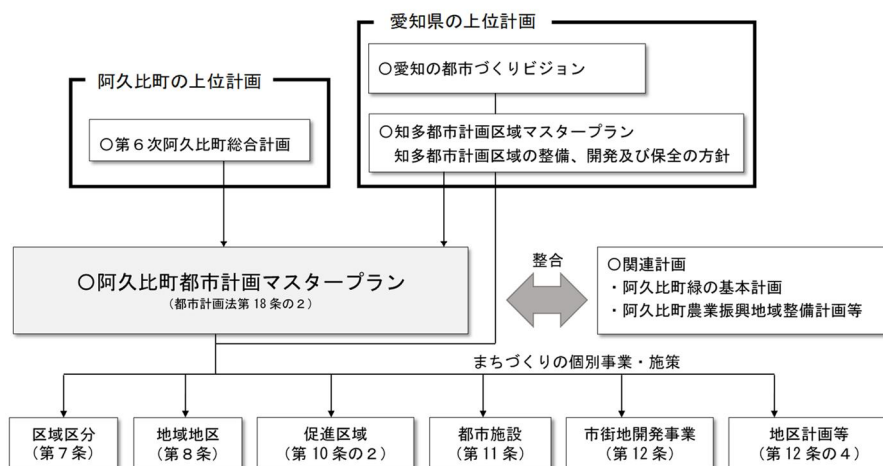
本町では、平成 18 年（2006 年）3 月に現行計画の策定を行っており、策定後 10 年以上を経過していることから、社会経済情勢等の変化を踏まえ見直しを行い、新たな計画として策定を行います。

■計画の位置づけ

本計画は、「第 6 次阿久比町総合計画」や「知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（愛知県）」などの上位計画に即するとともに、本町の関連部門計画との整合を図り、定めます。

今後実施されるまちづくりの個別事業や施策は、本計画に基づき、実施することとなります。

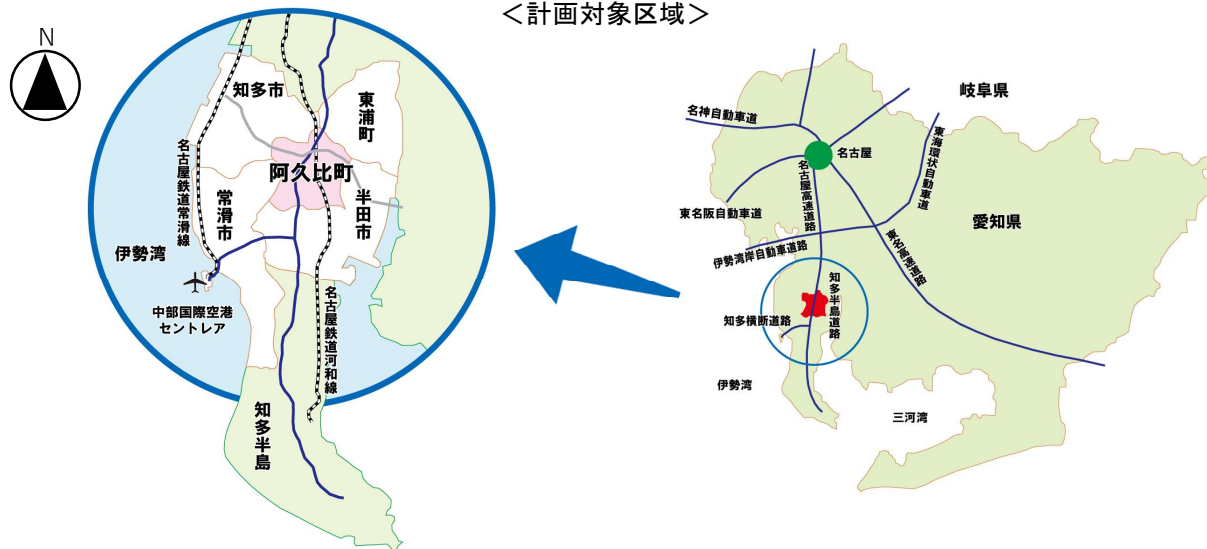
＜都市計画マスタープランの位置づけ＞



■計画対象

本計画は、本町の行政区域（都市計画区域）全域の 2,380ha を対象とします。

＜計画対象区域＞



■目標年次・計画期間

本計画は、概ね 20 年後のまちの将来像を見据えつつ、今後 10 年間で取り組むべきまちづくりの整備方針を定めるものであり、目標年次は令和 12 年度（2030 年度）とし、計画期間は「第 6 次阿久比町総合計画」に即し、令和 3 年度（2021 年度）から令和 12 年度（2030 年度）とします。



2. まちの現況・特性

本町のまちの現況・特性として、次の事項があげられます。

■ まちの現況・特性

まちの現況・特性（主なもの）

①人口は現在も増加していますが、今後は減少し、高齢化が進行する見込みです

- 総人口は近年も増加していますが、令和12年(2030年)を境に減少に転じる見込みです。
- 陽なたの丘などの新興住宅地で人口増加がみられる一方、高根台や福住園高台などの住宅団地では人口減少がみられています。
- 老年人口は年々増加し、総人口に占める割合が高まっています。

<住宅団地（高根台）>



②知多半島のほぼ中央部に位置し、名古屋都心まで高い利便性を有しています

- 知多半島のほぼ中央部に位置し、名古屋市から南に約 25km の距離にあります。
- 名鉄河和線(鉄道)及び知多半島道路(高速道路)を利用して名古屋都心まで約 30 分という高い交通利便性を有しています。
- 主要地方道名古屋半田線・西尾知多線をはじめ、近隣市町とのアクセスに恵まれています。

<名鉄河和線>



③阿久比川兩岸に広がる田園風景をはじめ、豊かな自然環境と景観資源を有しています

- 阿久比川をはじめとする河川やその周辺に広がる田園、丘陵地など、豊かな自然・景観資源を有しています。
- 水田やため池は、ホタルをはじめとする多様な生物の生息環境となっています。
- 住民意向として、「阿久比川兩岸の優良な田園風景の保全」が求められています。

<権現山>



④阿久比川や十ヶ川沿岸などにおいて、洪水被害等が想定されています

- 阿久比川・十ヶ川流域の「洪水ハザードマップ」や、牛作池などの「ため池ハザードマップ」が公表されています。
- 丘陵地の山林などでは、砂防指定地や急傾斜地崩壊危険箇所などが指定されています。
- 住民意向として、「災害に強く、安全に暮らせるまち」が求められています。

<牛作池>





3. 阿久比町のまちづくりの課題

まちの現況・特性のほか、上位・関連計画の位置づけや都市計画を取り巻く社会経済情勢の変化、住民意識調査の結果を踏まえ、まちづくりの課題を整理しました。

■ 今後のまちづくりの課題と取り組みの方向性

上位・関連計画の
位置づけ

都市計画を取り巻く
社会経済情勢の変化

まちの現況・特性

住民意識調査

《今後のまちづくりの課題と取り組みの方向性》

①人口減少と超高齢化社会への対応

- 身近な生活圏への必要なサービス施設の充実など、高齢者や子育て世帯が暮らしやすい居住環境の形成
- 既存の公共交通サービスの維持・充実
- 公共公益施設などの適切な維持・管理・有効活用 の促進 など

＜住宅団地（陽なたの丘）＞ ＜阿久比町循環バス「アグッピー号」＞



②知多半島中央部に位置する立地特性の有効活用

- 知多半島道路阿久比インターチェンジが立地する広域交通利便性を活かした産業の振興
- 知多半島の中央部に位置する立地特性を活かした観光・交流の促進
- 6次産業化の推進など、地域資源を活かした農業の活性化 など

＜花かつみ園＞

＜矢勝川沿いの彼岸花＞



③豊かな自然環境・景観資源の維持・保全

- 阿久比川や田園、板山高根湿地など、豊かな自然環境・景観資源の維持・保全と有効活用の促進
- 市街地や集落地の生活のうらおい・やすらぎの場となる緑の確保
- 自然環境と共生した低炭素・循環型社会への転換 など

＜板山高根湿地＞

＜植公園＞



④自然災害への対応・対策の強化

- 河川氾濫や急傾斜地の崩落など、大規模自然災害への事前対策・準備の強化
- 安全・快適な道路環境の整備
- 市街地や集落地の防災・避難の場となるオープンスペースの確保 など

＜阿久比川＞

＜都市計画道路矢高横川線＞





4. 阿久比町のまちづくりの理念と目標（全体構想）

まちづくりの課題を踏まえ、本町におけるまちづくりの理念と将来都市像、まちづくりの基本方針を次のとおり設定しました。

また、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（SDGs）との関係性について整理しました。

■ まちづくりの理念・将来都市像・基本方針

＜まちづくりの理念＞

① 誰もが快適に暮らすことができるまちづくり 「暮らし(居住)」

人口減少・超高齢化社会においても、生活の質を維持し、誰もが快適に暮らすことができるまちづくり

② 優れた立地特性を活かした 活力ある産業と交流のまちづくり「産業」

名古屋市や中部国際空港などへの優れた立地特性を活かし、活力ある産業や活気ある交流が育まれるまちづくり

③ 豊かな自然環境・景観資源と 調和したまちづくり「自然・景観」

阿久比川や田園風景など、豊かな自然環境・景観資源と調和したまちづくり

④ 災害に強く、安全安心に暮らせるまちづくり 「防災」

地震や風水害・土砂災害などの自然災害に備えた安全安心な暮らしを実現できるまちづくり

＜将来都市像＞

『暮らし、産業、自然を育み 未来につながるまち』

阿久比町が持つ地域資源や魅力を最大限に活かし、阿久比ならではの“暮らし”“産業”“自然”を実現・実感できる、住む人、訪れる人に選ばれる持続可能なまちを目指します。

＜まちづくりの基本方針＞

① 誰もが快適に暮らすことができる生活環境の形成

地域性に配慮した居住環境や生活サービス機能の維持・更新や幹線道路・生活道路の整備、公共交通サービスの機能強化を進め、誰もが快適に暮らし、移動できる生活環境の整備を図ります。



② 対流・交流を促し、新たな活力を生み出す産業環境の形成

知多半島道路の広域交通利便性を活かした新たな産業の誘致や観光・交流拠点の形成、農業の振興・活性化を図ります。



③ 豊かな自然環境を保全し、共生する都市環境の形成

既存の自然環境・景観資源を保全し、それらと調和したおいしい都市空間の形成を図ります。



④ 自然災害への事前対策の強化による安全安心な防災環境の形成

ハード面・ソフト面の防災・減災対策の強化により、災害に強い地域環境の形成を図ります。



⑤ 地域がまちづくりの主体となる協働環境の形成

官民連携や住民主体のまちづくりを推進し、地域コミュニティの維持・醸成を図ります。





5. 将来都市構造図

将来都市構造図として、都市や拠点間の連携を促進する「都市軸（軸）」、まちの骨格となる「土地利用（ゾーン）」、都市の核となる「都市拠点（拠点）」の考え方を整理しました。

■ 将来都市構造図

① 都市軸（軸）

町外を含めた各地域の土地利用や都市拠点を有機的に結びつける6つの都市軸を設定し、人やものなどのネットワークの強化を図ります。

	高速交通軸	○知多半島道路や名古屋三河道路（構想路線）を「高速交通軸」と位置づけ、圏域を越えた広域交流や連携の拡大・強化を図ります。
	広域交通軸	○（都）名古屋半田線及び（都）知多西尾線を「広域交通軸」と位置づけ、周辺都市との連携の強化を図ります。
	主要道路	○（都）知多東部線などを「主要道路」として位置づけ、分散する都市拠点間の連携強化を図ります。
	鉄道（名鉄河和線）	○広域的な公共交通軸として、名鉄河和線の輸送力の維持・保全を図ります。
	主要河川	○まちにうるおいをもたらす優良な自然・景観資源として、阿久比川水系及び十ヶ川水系の河川環境の保全や治水安全度の向上を図ります。
	アメニティ軸	○知多半島サイクリングロードなどを「アメニティ軸」として位置づけ、広域的な観光・交流の促進や住民の健康・やすらぎを与える場として整備を図ります。

② 土地利用（ゾーン）

町内を5つのゾーンに区分し、地域の特性や役割を発揮し、それぞれが調和した土地利用を形成します。

	住居系ゾーン	○既成市街地及びその周辺を「住居系ゾーン」と位置づけ、閑静で落ち着きのある居住環境を整備します。
	商業系ゾーン	○名鉄河和線各駅前や（都）知多東部線などの幹線道路沿道を「商業系ゾーン」と位置づけ、住民の生活サービス機能を誘導し、賑わいのある空間を形成します。
	工業系ゾーン	○既存工業団地や交通利便性の高い幹線道路の沿道に「工業系ゾーン」を位置づけ、新産業の受け皿として、産業拠点の形成、企業誘致を進めます。
	農業系ゾーン	○市街地外に広がる農地は「農業系ゾーン」と位置づけ、農業の振興とともに、豊かな景観資源として、保全・管理を図ります。
	自然環境系ゾーン	○阿久比川の両岸や西部・東部の丘陵地に分布する森林を「自然環境系ゾーン」と位置づけ、貴重な水と緑の空間、生物の生息環境として保全を図ります。

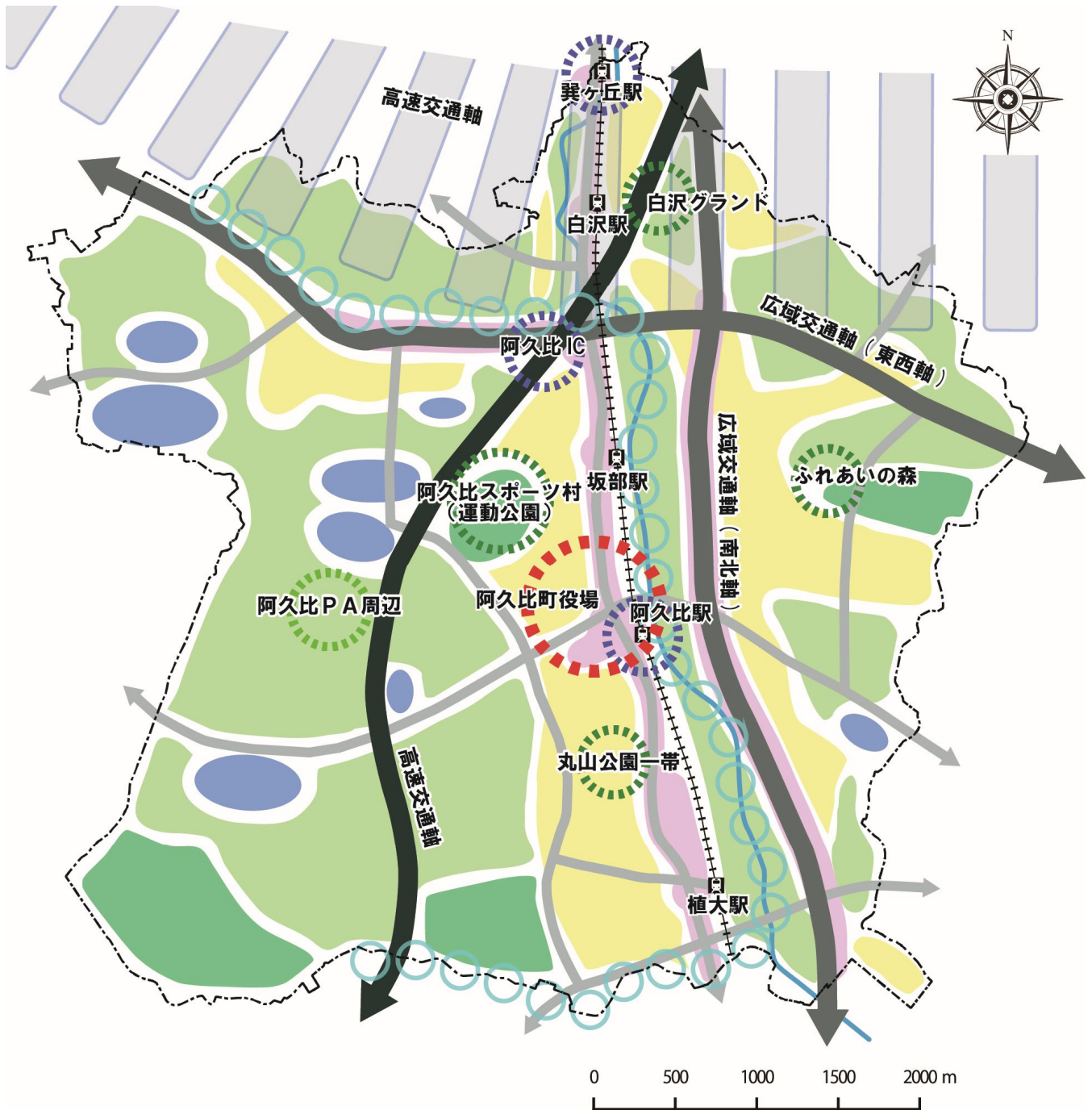
③ 都市拠点（拠点）

生活に必要な都市機能や賑わい・交流の核として4つの拠点を設定し、多様な都市活動の中心としての機能強化を図ります。

	中心商業・業務拠点	○阿久比駅や阿久比町役場などが立地する町中央部を「中心商業・業務拠点」と位置づけ、行政サービスや商業、文化、情報発信、福祉などの様々な機能の集積を図ります。
	交通拠点	○知多半島道路阿久比インターチェンジ周辺及び阿久比駅、巽ヶ丘駅周辺を「交通拠点」と位置づけ、広域的な移動・交流の促進や交通機能の強化を促進します。
	レクリエーション拠点	○阿久比スポーツ村やふれあいの森、丸山公園などの都市公園などを「レクリエーション拠点」と位置づけ、総合的な憩いの場としての機能向上を図ります。
	緑のふれあい交流拠点	○知多半島道路阿久比パーキングエリア周辺を「緑のふれあい交流拠点」と位置づけ、広域的な集客・交流拠点の形成を図ります。



<将来都市構造図>



凡 例		
↔ 高速交通軸	住居系ゾーン	中心商業・業務拠点
↔ 広域交通軸	商業系ゾーン	交通拠点
↔ 主要道路	工業系ゾーン	レクリエーション拠点
++++ 鉄道	農業系ゾーン	緑のふれあい交流拠点
— 主要河川	自然環境系ゾーン	
○○○○ アメニティ軸 (知多半島サイクリングロード等)		

注：この図は、長期的な視野により目指すべき都市の姿を想定したものであり、具体的ルートや位置、規模を想定したものではありません。



6. 地域別のまちづくり構想（地域別構想）

（1）東部地域のまちづくりの基本方針

①子育て世帯や高齢者が安心して暮らせる地域づくり

宮津地区や陽なたの丘地区の既存住宅地や住宅団地において、良好な居住環境の維持・保全に努めるとともに、子育て世帯や高齢者などが安心して暮らし続けることができる生活環境の形成を図ります。

②交通環境整備と連動し、新たな産業を創出する地域づくり

（都）矢高横川線などの早期整備を促進するとともに、新たな工業用地の整備を促進します。

③災害に強く、安全な地域づくり

阿久比川・英比川や丘陵地の急斜面に近接する集落地の防災性を向上し、安全な地域環境の形成を図ります。

＜東部地域のまちづくり方針図＞



凡例

低層住居ゾーン	観光・交流・レクリエーションゾーン
一般住宅ゾーン	市街地拡大候補地
中心商業・業務ゾーン	産業系候補エリア
近隣型商業ゾーン	小中学校
沿道複合利用ゾーン	公園・緑地 ● 新規公園
工業ゾーン	河川・ため池
集落地ゾーン	広域的な公園・緑地の拠点
農地ゾーン	交通拠点
自然環境ゾーン	文化・集会施設
	福祉施設
	その他公共公益施設



6. 地域別のまちづくり構想（地域別構想）

（3）草木地域のまちづくりの基本方針

①既存の住宅地や集落地において安心して暮らし続けることができる地域づくり

既存住宅地や集落地において、良好な居住環境の維持・保全に努めるとともに、子育て世帯や高齢者などが安心して暮らし続けることができる生活環境の形成を図ります。

②美しい緑・田園環境と調和した地域づくり

草木川や花かつみ園の自然環境を保全し、市街化調整区域に広がる良好な緑・田園環境と調和した地域環境の形成を図ります。

③災害に強く、安全な地域づくり

草木川や居住地の防災性の向上や草木小学校などの避難所や避難場所の適切な維持・保全、機能強化に取り組み、安全な地域環境の形成を図ります。

＜草木地域のまちづくり方針図＞



緑のふれあい
交流拠点(総合公園)
の整備検討

都市計画道路の整備促進

商業系の市街地
拡大の推進

阿久比駅周辺への商業・業務などの
生活サービス機能の維持・集積

阿久比川・矢勝川の
サイクリングロード整備促進

浸水想定区域での
治水対策
(阿久比川・矢勝川)

十ヶ川の
河川改修の促進

都市計画道路
の整備促進

たん水防除
事業の促進

都市計画道路の整備
や農業基盤整備と
連携した産業用地の創出

用途地域の見直し検討

都市公園の整備

市街地拡大の検討

凡 例

一般住宅ゾーン	観光・交流・レクリエーションゾーン
中心商業・業務ゾーン	市街地拡大候補地
近隣型商業ゾーン	商業系候補エリア
沿道複合利用ゾーン	小中学校・高校
専用工業ゾーン	公園・緑地
工業ゾーン	河川・ため池
住工共存ゾーン	緑のふれあい交流拠点
集落地ゾーン	文化・集会施設
農地ゾーン	福祉施設
自然環境ゾーン	その他公共施設
	新規公園



7. まちづくりの推進方策

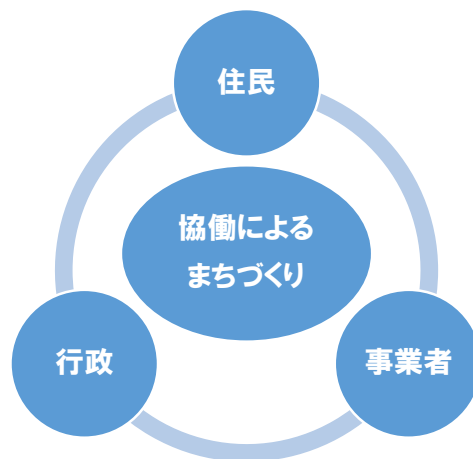
■協働によるまちづくりの推進

「広報あぐい」の発行や「まちづくり懇談会」の開催を通じて、本町の都市計画行政への理解促進を図ります。

また、各種事業の実施や計画策定にあたり、住民や事業者の参画機会を設け、取り組みます。

＜住民・事業者・行政の役割＞

住 民	地域に密着したまちづくりの担い手として、住民一人ひとりの意識醸成を図り、まちづくり活動への参画を促進します。
事業者	CSR活動（企業の社会的責任・貢献）によるまちづくりへの積極的な参画を促進します。
行 政	将来像の実現に向けて、都市基盤整備などの計画的な事業推進を図るとともに、協働のまちづくりの推進に向けた情報発信や支援の充実に努めます。



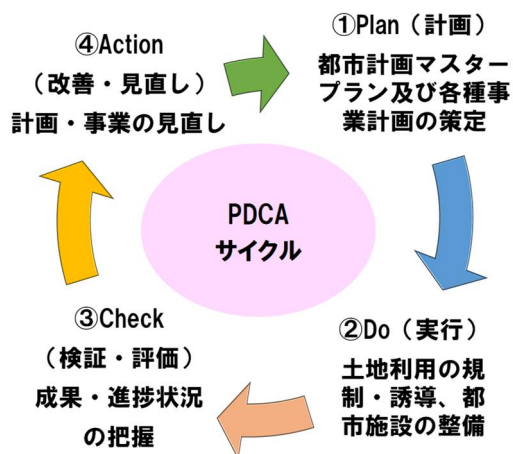
■まちづくりの担い手育成・シビックプライドの醸成

ボランティア活動やまちづくり講座、学校教育などを通じて、自分たちが住むまちを知り、まちに対する誇りや愛着であるシビックプライドの醸成を図り、新たな地域人材の育成を促進します。

■マスタープランの見直し・進行管理

本計画は、愛知県の「知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」や「第6次阿久比町総合計画」の改定時、社会経済情勢の変化などを踏まえ、適宜、必要な見直しを行います。

また、本計画の着実な実現を図るため、評価指標を設定し、その達成状況について、PDCA サイクルによる進行管理を行います。



＜阿久比町都市計画マスタープランに関するお問い合わせ＞

阿久比町 建設経済部 まちづくり推進課
 〒470-2292 愛知県知多郡阿久比町大字卯坂字殿越50番地
 TEL : (0569) 48-1111 (代) FAX : (0569) 48-0229 (代)
 HP : <http://www.town.agui.lg.jp>

